

1.長期成長ビジョン

循環型社会、環境構築のビジョンの下、「資源循環リサイクラーから、製造、リジェネラティブインフラストラクチャー移行」という戦略を掲げ、本事業で新工場設立、先端分別設備導入、処理設備のDX化を図ることで、画期的な省力化を達成する。

長期成長ビジョン（目指す姿・ビジネスモデル）

ビジョン（実現したい未来像）

物:循環と共生が機能する物・品質、コストプロセス

- ・HSE（健康、安全、環境）の企業価値向上、競争力強化
- ・再生資源のブルーカーボン、グリーンカーボン社会実装（製品高付加価値化）
- ・自己発電、自己循環するプロダクト

場所:自然と循環が共存できる場所

- ・共創による技術、人的能力開発、ESGの実施とともに収益構造確立

事:環境価値を生む仕事行動

土壤、水、森の再生を行う事業（リジェネラティブビジネスの加速）

成長戦略（メガトレンドへの対応）

循環型経済の中核を担う価値創造産業へ進化する

物、事、場所への総合的ハード面ソフト面の大規模転換を図る

*中期計画(5年)（本事業）

資源循環リサイクラーから製造、リジェネラティブインフラストラクチャーに移行

*長期計画

地域と地球の未来デザインをするエッセンシャル産業へ

成長手段（本事業）

■新工場設立・省力化設備・システム導入による処理能力向上

- ・新工場設立により受入れ処理能力拡大
- ・AI光学システムで、現在手作業での廃棄物仕分けを、自動化、省力化する。
- ・MES（製造実行システム）により、処理設備の稼働状況を基幹システムに統合し、省人化、品質、生産能力向上

■混合物の自動選別ライン新設により、プラスチック、金属等の再資源化（資源循環国家戦略に貢献）

老朽化設備の集約とライン再配置により、処理能力・再資源化能力の両面で大幅な拡張を図る。中長期的な搬入量の増加に備える

会社全体の売上成長目標（直近決算～2030年度）

- ・売上高増加額8,536百万円（6,716百万円→15,252百万円）
- ・売上高成長率12.4%

外発的動機

①再生樹脂のほとんどが輸出される

→国内ユーザーの求める高品質・低価格なマテリアルリサイクルが必須

②国内スクラップは将来、需要に対して不足

→高品位スクラップが不足しており、金属再資源化の対策が必要



※1 動静脈物流解剖図（2023年9月 経産省） ※2 鉄鋼資源循環戦略と課題（2023年12月 日本鉄鋼連盟）

内発的動機

①搬入量が工場処理能力を越え、顧客ニーズに応えきれていない

→これ以上の成長には工場増設が不可欠

②新規採用者、特に若手の教育環境を充実させたい

→省力化による余剰時間を若手教育に充てる。自動化、AI活用で熟練者でないと実施できない作業を減らし、若手が活躍しやすい環境をつくる

③「資源循環リサイクラーから、製造、リジェネラティブインフラストラクチャー移行」

→日本のサーキュラーエコノミーを支える静脈産業のリーディングカンパニーとなるべく、廃プラスチック・金属のマテリアルリサイクルを強化し、動脈産業への再生材供給に進出する

→更に、「**再資源化100% 廃棄物の埋め立てがない日本をつくる！**」を達成すべく、廃棄物を無害化・減容化・資源化する事業への大規模投資やM&Aを活用し、**再生資源製造業**、収集運搬、解体事業等への進出を実施したい

2.補助事業の概要

補助事業実施による付加価値向上により、労働生産性を年平均28.5%向上し、基準の年平均上昇率4.5%を大幅に上回る8.0%の賃上げ目標を確実に達成する。

補助事業の背景・目的	<ul style="list-style-type: none"> 【背景】環境規制強化に伴う再資源化需要の拡大、廃棄物処理能力・処理精度の限界 【目的】持続的成長とサーキュラーエコノミー推進の実現 <ul style="list-style-type: none"> →廃棄物受入量の拡大 →混合物処理高度化による新規再生リサイクル品製造・販売強化（再生プラスチック、金属、再生砂、固形燃料） 【課題】生産規模拡大、処理能力（効率・精度・新規分別技術）向上、製品高付加価値化、安定稼働 	事業費 (補助額) 4,922百万円 (1,641百万円)
------------	--	--

設備投資の内容	経費項目	名称	投資額	効果	労働生産性向上
	建物費	RPF製造/可燃混合選別 /有価物（金属） 統合プラントほか	18.4億円	<ul style="list-style-type: none"> 本社工場隣接地に新工場建設→生産規模拡大 本社既存工場への改修・改善工事 	<ul style="list-style-type: none"> 既存施設を含めた各プラントの役割再編、従業員再配置、レイアウト最適化、作業環境改善
機械装置費	選別機・破碎機	30.1億円		・分別工程：手作業の自動化による生産効率向上、製造コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> 省力化設備導入に伴う生産工程自動化 <ul style="list-style-type: none"> 省人化・サイクルタイム大幅削減 製品の高付加価値化により付加価値額増加
	成形機			・AI・センサー技術活用による分別分級精度向上	
	モニタリング設備他			・本社既存工場効率化	
	その他設備				
ソフトウェア費	生産統括管理システム プラント3Dデータ化他	0.73億円		・生産管理情報の見える化による業務効率の向上、安定稼働の実現	<ul style="list-style-type: none"> 生産情報や機械設備の稼働状況がシステムに自動入力 廃棄物持込時の待ち時間短縮による処理業務効率化、顧客満足向上
	廃棄物持込待機場管理システム			・廃棄物持込時の待ち時間短縮による処理業務効率化、顧客満足向上	

目標値	項目	基準年度	事業化報告3年目	新工場完成イメージ
	労働生産性 (単位：千円/人)	15,160	32,134 (年平均上昇率+28.5%)	
従業員1人あたり給与支給総額 (単位：千円/人)	6,264	7,891 (年平均上昇率+8.0%)		
役員1人あたり給与支給総額 (単位：千円/人)	-	- (年平均上昇率+6.0%)		
補助事業に係る従業員数 (単位：人)	145	180		 